



JAA通信

(Japan Autonomous Academy)

日本自治 ACADEMY 会報誌

Vol.4 2010年1月発行

(ホームページアドレス)

<http://japan-a-academy.com/>

[発行]

NPO法人 日本自治ACADEMY

北海道下川町西町88番地2(株)谷組内

郵便番号 098-1205

Tel:01655-4-2595

Fax:01655-4-2596

E-mail:info@japan-a-academy.com

Contents

P1 巻頭写真

「白鳥大橋カウントダウン2010」(室蘭市)

P2 寄稿

「議員力を高める?!」

山崎 幹根 さん

(北海道大学公共政策大学院 教授)

P3 フォーラム「アジアと北海道の つきあい方パート2」講演要旨

ステージ1(P3)

「北海道と香港の交流の現状」

安齋 勲 さん

(北海道日本香港協会 副会長)

ステージ2(P6)

「パートナーとしての韓国」

近藤 浩 さん

(北海道新聞 前ソウル支局長)



「議員力を高める?!」

北海道大学公共政策大学院 教授
山崎 幹根 さん



近年、いっそうの地方分権をすすめるようとする議論の中で、また、夕張市の財政破綻の原因をめぐる議論の中でも、地方議会に関心が集まり、その役割を

考え直す機運が高まってきました。そして今日、議会が自治体の行財政運営に対して的確なチェックを行い、首長と緊張感のある関係をつくるために、個々の議員さん、そして各地の議会で改革が実践されています。このような中で、昨年、2009年から新しく「議員力検定」が全国で始められました。北海道でも日本自治アカデミーの方々のサポートを得て、検定試験が札幌で受けられるようになりました。私も議員力検定協会の共同代表の先生から依頼を受け、若干のお手伝いをさせていただいています。

ところで、よい議員さんとは、どのような議員さん、どのような議員活動と答えればよいのでしょうか。議会で理事者側を鋭く追及する質問をすること、豊かな法律の知識を持って多くの条例を可決すること、あるいは支持者の要望を反映させること等々、その答えはけっして一つではありません。その意味で、いわば座学の知識である検定試験の成績が優れていることが、そのままよい議員さんである証明になるとは限りません。

最近では、各地の「ご当地検定」や「ファイターズ検定」など、数多くの検定が行われており、検定ブームの感があります。この「議員力検定」も、良い意味で前向きな遊びとしてとらえて、一人でも多くの方々に興味を持っていただければと思います。検定試験の問題を解いて

1 ゆくと、議会、そして議員さんの仕事が、実に多岐にわたっていることが実感できます。また、現代の地方自治のしくみのなかで、議会、議員さんのあるべき姿も改めて認識することができます。なお、この「議員力検定」には「議員」のほか、「一般」、「ジュニア」の級も用意されており、議員ではない皆さんも気軽に受験することができます。地方分権の一翼を担う議会、そして議員の役割を考える機会として、ぜひ気軽にチャレンジしていただけることを期待しています。

議員力検定

議員力検定試験は、東京に本部のある「有限責任事業組合 議員力検定協会」が主催しているもので、現在、全国7箇所(札幌・仙台・東京・甲府・名古屋・大阪・福岡)の会場で実施されております。昨年の5月に第1回目、今年の1月24日(日)が第2回目となり、今後逐次実施予定です。

受験者のために、昨年春には「議員力検定問題集」が発刊されたところですが、この度、「議員力検定マスター問題集」と「議員力のススメ」が発刊されました。

第1回目の試験では、全国で250名ほどの人たちが受験したとのこと。

日本自治ACADEMYでも会場運営など、この試験のお手伝いをしています。

主催者では、今後、全国の会場を増やすなどして、長く続けていきたいとのことですので、多くの方に知っていただきたいと思っております。

(日本自治ACADEMY理事長 谷 一之)

検定試験に関するお問い合わせ、資料請求は、

ホームページ <http://www.giinryoku.jp>

または TEL 03-5367-8295

(検定事務局)まで

フォーラム「アジアと北海道の つきあい方パート2」講演要旨

日本自治 ACADEMY とグリーンシード21は、昨年に引き続いて、「アジア地域との結びつきをより深めるために」をテーマに、フォーラム『アジアと北海道のつきあい方パート2』を8月6日(ステージ1)、10月2日(ステージ2)の2回、札幌市内で開催しました。昨年は中国と韓国の留学生を囲みパネルディスカッションなどを実施しましたが、今年は香港、韓国に在住したビジネスマンの方々から実体験に基づくお話を伺い、ご参加の皆様日本とアジア諸国の具体的な交流のヒントを探っていただきたいという趣旨で開催しました。

ステージ1 講演要旨

北海道日本香港協会 副会長

安齋 勲 さん

あんざい・いさお 札幌市生まれ。川崎汽船(神戸)、東洋船務有限公司(香港)などの勤務を経て、大和つばめグループ入社(札幌)。現在は大和交通(株)副社長。香港滞在歴13年。香港と北海道の友好発展のため、幅広く活躍。

「北海道と香港の交流の現状」

お話を始める前にお伝えしたいことがあります。後ほど、私の友人である香港貿易発展局のラム総裁がこの会場に来ることになっています。貿易発展局は日本で言えばジェトロに相当します。総裁はちょうど北海道旅行中として、私が香港の実情について皆さんとお話をするということをお伝えしましたら、是非参加させていただきたいということになりました。総裁という役職なのに、お会いになったら、きっと若くてびっくりすることと思います。今の香港の実情について生のお話を聞かせていただけると思う

ので、楽しみにしててください。

(香港の紹介ビデオを10分ほど見た後、お話に入りました)

私は生粋の道産子で高校までは札幌でした。皆さんよりはるかに年上で昭和30年代の半ばに大学を卒業しています。私は単純に外国へ行き



たいということで商船大学に入り、船乗りになりました。今、このような状態になっているわけです。

香港へ渡ったのは昭和47年ですけども、船に乗っている昭和39年にはじめて香港に行きました。当時の香港は道を歩いてもゴミの山で、クサイクサイという印象でした。昭和47年に、たまたま知り合いが船会社をやっておりまして、キャプテンというのは信用もあるし、宣伝上もいいというので、是非香港に来てくれということで、行ったわけです。キャプテン何々というのを香港で使ったのは、多分、日本人で私が初めてだと思います。

香港の面積は1,200 km²で札幌市と同じくらいの広さです。その中に約700万人の人がひしめき合っているという印象です。したがって、人口密度が大変に高い。気候は亜熱帯に入り、緯度は北緯22度付近。北回帰線が23度付近で、北回帰線上では夏至の時の太陽は真上にくるので、香港はそれより南ですから、一瞬の間だけ、太陽が北側にいきます。

香港は自由経済であり、ほとんど制約がないということから、14年前から経済の自由度を研究する機関によると、始まってから今まで全部香港が一番です。その基本となっているのが自己責任です。自己責任ということは、終身雇用ということも話題になりませんし、社会保険もない。このへんは問題があるかもしれませんが、

そういう保険は民間の保険で自分でカバーしなさいということです。

そして税金がすごく安いんですね。個人の所得税は15%が最高ですから、香港ではある程度お金を貯めたら、どんどんお金が儲かるといわれております。法人税も16.5%が最高です。

ではなぜそのような安い税金で運営できるのでしょうか。チープガバメント。たとえば免許の更新です。日本だと、朝早く行って、印紙を買って、目の検査をして、待たされてということですが、香港では違反歴などをコンピュータでみて、写真をよこしなさい、はい、ポンとくれる、目の検査なんてないんです。なぜかという、目が悪くて一番危険なのは自分でしょう。だから目が悪かったら見えるような眼鏡を作りなさいと。赤信号で渡って車にはねられたら、はねられ損。逆に、街の中では赤信号で渡ってもつかまらない。全部自己責任ですね。したがって香港の人とつきあっていると、非常にドライな感じがします。情緒がない。テンポが早い。

言葉ですけど、北京語が標準語です。30年前までは公用語は英語オンリー。英語オンリーといいながら、当時は40~50%ぐらいしか英語を解しない。現在は60~70%ぐらいは解することになっています。広東語は公用語になったのは今から30年前で、それまでは認められていなかった。

また、以前は相続というのはすごくうるさかったんですけども、突如として相続税がゼロです。15%の税金で相続税もない。だからお金持ちが集まってくるんですね。

(ここで、香港貿易発展局のラム総裁が会場にお越しになり、着席)

この方が、先ほどお話ししたラム総裁です。ものすごくお若いんですね。

香港の人は考え方が非常にドライというか現実的です。例えば、日本では、麻雀で勝っている人が止めるといえば、勝ち逃げだといって非難しますよね。香港では、勝っている人が止めるといえば、ああそうですかと言います。逆に

負けている人が止めるといえば「やろう、やろう」と言います。それは現実的ですよね。ついでに人に挑戦しても勝つ確率は少ないんですよ。こういうものの考え方をするんですね。

それから会社のスタッフでも、株とか為替とか金の相場とかに常に興味を持っています。為替の相場を知らない香港の人はほとんどいないと思います。また、香港は以前イギリス領だったのでレディファーストも徹底しています。香港の奥さん方はあまり料理もしませんね。

気候については、特に今頃(8月)はずっと30度を超えていて、湿度も90~95%。我々日本人は冷房がなかったら夜は過ごせないだろうと思います。

きょうは北洋銀行国際部(北海道日本香港協会の事務局)の部長さんがいらしています。パンフレットもお配りしていますが、この協会では、年1回交流パーティーがありますし、協会に入っただけであれば、貿易フォーラムにも参加いただけるし、秋には沖縄から北海道まで7支部の交流会が気候のいい秋に香港であります。是非会員になっていただきたいと思います。

ラム総裁に香港のキーワードを聞いてみます。**(安齋副会長の問いかけに、ラム総裁は、フリー、そしてインターナショナルと返答)**

ラム総裁がおっしゃったように、まず自由そしてインターナショナル、あらゆる国の人たちが来ています。どこの国の人たちも自由に仕事ができます。為替手数料をとられるとか、キャピタルゲイン(株式譲渡益)に課せられる税金もありません。ただ、競争は厳しいです。

私が日本に帰ってきて思ったのは、タクシー会社をやっていますが、まず組合対策ですね。会社としては税金対策、頭の大部分を組合と税金に使います。それと、きょうは議員さんが多いですが、補助ですね。これは国際競争とは縁のないものです。そういうのにエネルギーがいきすぎて、国際ビジネスから乗り遅れていく可能性があるという気がします。

香港が国際都市としてすごいのは、展示会産

業がGDPの1.8%を占めるということです。いろんな人がやってくるので、香港の人は英語はもちろん、二つ言葉をしゃべるのは当たり前です。3つ話せて、はじめて「おー」ということになります。

また、中国では我々からみると、賄賂が多いようです。けしからんと我々日本人は言うんですけれども、中国は歴史も古いし、人口もどこの国よりも多い。長年やった習慣をけしからん、止めろと非難するよりも、習慣を理解した方がよろしいですよということです。

また、日本人にとって難しいのは、皆、同じような名前で、名刺もなかなか渡してくれない。向こうで仕事するためには、パートナー選びが非常に重要です。特に日本語がわかるという人たちがほど気をつけないといけない。中国の人たちは歴史的に日本が好きですよという人はまずいないんです。第二次大戦で親戚か誰かがひどい目に遭っていますから。そんなに日本人を尊敬していることはないということを前提に考えられた方がいいです。ただ長年つきあっていると真の友達はできます。パートナー選びにしっかりと時間と費用をかけることが向こうで成功している私どもの仲間のアドバイスです。

北海道の人はどっちかという（中国の）北の方の人と商売をしようとする人が結構いますね。北の方は香港に行かなくてもまた別のルートがあるということはいえると思います。

それから、日本人の知人で香港が好きで香港貿易発展局に入り、現在は食品担当になっていますが、ラム総裁の部下なんですけれども、香港に持っていくなら食品だと北海道では考えていいのではないかとっていますし、私もそう思います。

食品市場の特徴ですが、外食する人がものすごく多いんですよ。家で1日も食事をしたことがないという人も私は知っております。

レストラン 14,000 店、60%が中華料理です。日本食は 1,350 店、そのうち日本人の職人がいるのは 1/3 ぐらいで、完全に日本人が経営して

いるのは 30 店に満たない。あとは全部日式という、（中国の人が）独立してレストランをやっている。

説明の最後になりますが、香港、マカオ、深圳（しんせん）一体化 1,700 万人経済形成という構想があります。私も長い間、香港にいたんですけれども、その当時は、マカオは本当に貧乏な町で、サービスも悪かったんですが、この前行って本当にびっくり仰天しました。ラスベガスを売り上げで抜きました。まるっきり別世界ですね。一番大きなホテルは 3,300 室もあり、賭博場も体育館を二つ合わせたくらいです。また、香港からマカオへ長大な橋を造ろうという計画もあるようです。香港はこれからどんどん発展していきますね。私の話は以上で終わりますが、それでは、ここで、ラム総裁にお話をお願いしたいと思います。

（通訳は安齋副会長）

ラム総裁 皆さんに会えてとてもうれしです。日本が大好きで、年2回は個人的に、またはビジネスで来ています。北海道にも何度も来ております。こういう機会を得まして、香港について



お話をしたいんですけれども、私は日本語が全然わかりませんが、すでに安齋さんが多くの説明をされたことと思います。

香港は非常に小さな面積で、人口は 700 万人です。といいながらも、小さいところで、自由経済を売り物に長年やってきました。

香港でのビジネスの魅力は、たくさん儲けたら、たくさんポケットにお金が入るシステムになっているということでございます。

法人税は現在 16.5%ですが、近い将来は 15%に減らすという計画でやっております。自由貿易港ですから、ほとんどのものは税金がかかり

ません。そして相続税もありません。個人の税金は 15% ですし、申告にも手間をかける必要はありません。税金が安いということはそれだけ利益が残って、それがまた次のビジネスの競争に生かせるということです。

それと、日本だとか、アメリカだとか国によって差別することはありません。とにかく消費者第一ということですから、輸入税はかけずに世界最高のもを香港にもってきてもらう。地元の企業に対しても全く援助とか、特別扱いとかというのがありません。だから、こんな小さな国が世界 11 番目の貿易港になっているということでございます。

税金が安いということだけではまだ十分ではなくて、いろんな手続きについて政府が便宜を図ります。政府がいちいちいろんな規則を企業につけることはない。ということで皆さんも希望すれば明日いって、あさってから香港で仕事ができるということでございます。実際は難しいですが。

また香港は非常に安全な場所であるということ強調したいと思います。世界中と比べても香港は非常に安全である、真夜中に道を歩いても食事に行っても何をしても問題はない。

そして、電気製品などが代表的なものですが、香港が中国市場進出へのテストの場という役割を担っているので、香港だけに目を向けるのではなく、将来中国に入っていく入口としての香港ということをご理解いただきたいと思います。

今、年々、香港から中国への旅行者が増大しております。また、中国人もたくさん香港を訪れておりまして、毎年 1,500 万人にも達しています。目的はショッピングです。以前、香港でのショッピングの中心は日本人でしたが、いまや中国人に変わっております。

中国の消費の傾向は、香港に近く、香港の流れにのっています。中国の人たちは、常に香港を見て流行にのっかっているということです。どんな製品でも香港で有名になって売ればその後すぐ続いて中国でも売れていくようになる

と思います。

中国での商売については、香港の人たちはすでに中国との人脈を構築しているのので、香港の人を通じて取引をした方が確実であろうと思います。だからといって、直接中国に行くのをやめなさいというつもりはありませんが、二度手間になる恐れがあるということでございます。

これ以上深く香港について知りたければ是非日本香港協会に入ってください、スタッフが東京と大阪におりますから、何か疑問がありましたら、いつでもその人たちを通してお答えさせていただきます。

この機会にすぐにでも香港にお出でいただきたく考えております。どうもありがとうございました。

ステージ 2 講演要旨

北海道新聞 前ソウル支局長

近藤 浩 さん

こんどう・ひろし 1961 年生まれ。中大商学部卒。'86 年北海道新聞入社。本社社会部、東京支社政経部などを経て'04 年にソウル支局長。'07 年から本社勤務。現在編集局報道本部次長。白老町出身。

「パートナーとしての韓国」

みなさん、こんばんは。北海道新聞の近藤と申します。2004 年から 2007 年まで 3 年間、ソウルに勤務しまして、帰国する時に、インサンドンというところで買った民族衣装をきょうは着てきました。



これは正

式なものではなくて、韓服というんですけども、簡易的なもので、おじいさんがよく着ています。これを着ると夏はすごく涼しいですね。きょうの会場は10月にしては蒸し暑いので、ちょうどいいです。よろしく願いいたします。

ソウルから帰国したのが2007年ですが、それからしばらく韓国に行く機会がなくて、いつか里帰りしたいと思っていました。今回、この講演のお話をいただいたんですが、最近の韓国の事情が全然わからなくて、お話する限りは現地をもう一回見て来なければいけないと思いましたが、実は先月(9月)、4泊5日でソウルとか地方に行ってみりました。

韓国というのは、バスの交通網が発達しているところで、地方に行くときはほとんどの人がバスを利用します。今回は、グンサンという南部の町に行ってきたんですけども、南部は食材も豊富で、食べ物おいしいところです。

皆さんのお手許に、韓国から買ってきました飴や、ご用意していただいたチジミとかがありますので、食べながら聞いていただければと思います。

ではまず、夕飯時でもありますので、ソウルやグンサンなどで撮ったきた写真を紹介しながら、韓国の食べ物などについてのお話から始めたいと考えております。

(写真をみながら、韓国の食材、伝統料理を紹介)

これは、今回の旅で最初の日に行ったソウルのインサンドンにある伝統的な韓国料理のお店に行った時の食べ物で、魚を卵でくるんであるんですけど、センソンジョンといいます。センソンは魚のことで、ジョンはチジミのことです。チジミというのは南部地方の方言なんです。

これはモンゲです。日本ではホヤですね。韓国ではよく食べます。日本よりもたくさん食べると思います。韓国では居酒屋などではおつまみとしてよく出てきます。

これは手長ダコの辛味噌炒めです。北海道の人はあまり食べないんですけど、西日本にはよくあります。札幌の韓国料理屋では時々出てく

ると思います。

これは私の食べた朝食なんですけど、ヘジャンコクというものです。豚肉の背骨をぐつぐつ煮たもので、食べると汗が出て二日酔いに最高いいです。韓国のサラリーマンは朝、汗をかいて二日酔いを吹き飛ばすというものをよく食べます。私も前の日にかなり飲んだものですから、こういうものを食べました。

これは、グンサンのヘジャンコクの専門店なんですけど、これはまた先ほどと違ったヘジャンコクで、中に豆モヤシが入っています。豆モヤシというのは日本のスーパーではあまり見かけませんが、韓国では主流で精がつくといわれています。韓国の食べ物の基準というのは、ひとつには精がつくかどうかというのがあって、犬料理もまさに精がつくという観点から食べられます。豆モヤシも精がつくということで男性がたくさん食べます。ナムルも日本で一般的な小さなモヤシより、豆モヤシで作る方が多いですね。

これは犬料理のポシントンです。日本人が夏の暑い時期にウナギを食べるようなイメージで、ポシントンを食べるということでしょうか。ウナギを食すほどの回数ではないと思いますが。専門店で、28,000ウォン(2,000円)ぐらいです。韓国の食べ物の中では高い方です。

韓国の人は最近では犬を食べるということは外国人にはあまり大きな声では言い出せないみたいです。もちろん、韓国でも何年も前からペットブームで、愛玩動物と食用犬というのを区別しています。ソウルのミョンドンには愛玩動物の専門店がずらっと並んでおり、ショーウィンドウには子犬がたくさん遊んでいます。一方、食用になるのは、毛が短い感じの白い中型犬です。

味は店によって多少違いますが、ここのお店は大統領府に近く、その職員もよく来る高級店なんですけど、何も言われなければ、食感は柔らかい牛肉のような感じですかね。ポシントンにはセリなど香草がたくさん入っているので、

においも全然ありません。ツアーで行ってもこういうところはなかなか紹介してくれないかもしれませんが、これも韓国の食文化の一つですので、機会がありましたら、試されたらいかがでしょうか。

(韓食世界化運動)

前置きが長くなりましたが、今、いろいろと食べ物を見てきました。我々日本人からみても韓国の食べ物はおいしいと思いますけど、韓国もそういうもので外貨を稼ごうということで、今年から韓食世界化運動というものを始めているようです。

世界化のメニューの中に皆さんよくご存じの混ぜご飯のビビンパや伝統酒のマッコリがありますけど、ここから本題に入っていきますが、そういう世界化をなぜしようかということですが、つまり、イメージとしては日本の寿司とか天ぷらですね。そういうものをイメージしている。なぜ今世界化というものを考え始めたかという、やはり、昨年(2008年)11月にミシュランが東京版を出しましたよね。それにかなり刺激を受けまして、韓国も日本にならって、世界に発信していこうということが背景にあったようです。

(「反日」「脱日」の時代)

やはり、韓国というのは、歴史的に見ても、日本との関係で成長してきている。常に、日本を見て発展してきているんですね。今、日本人も韓国に対してかなり関心を持つようになりましたけど、韓国というのはその何倍も日本に対して関心を持っています。日本に追いつき追い越せということで発展してきた歴史があります。

これは、50年前に朝鮮戦争によって破壊された橋の風景です。ハンガンというソウルを流れている大きな川ですが、その後の経済発展というのはめざましくて、いわゆるハンガンの奇跡といわれているんですが、常にその過程で日本という存在が大きかった。

ただ、もちろん、日本を常に見てきてはいたんですけど、反日というのがあって、私はよく

「愛憎相半ば」というんですけども、反日と憧れという中で韓国は発展してきたといえると思います。

しかし、私がいた頃には、韓国の日本に対する関心は、それ以前に比べて変化していました。私がいた2004年から2007年の間というのは、韓国は非常に経済が成長しました。日本が失われた10年とって、バブルの後で苦しんでいる時に、どんどん経済成長を遂げていまして、それまでの日本への憧れから、日本、何するものぞと、脱日というんでしょうか、日本はもう相手にしないんだというムードが結構ありました。

ひとつの契機となったのが、2002年のワールドカップですね。その時、韓国はベスト4までいきました。このことは、特に、若者たちにとってはうれしい出来事でした。世界の小国でしかないというコンプレックスが結構あったんですけど、これで世界に認められたというのがあるって、もう日本には勝ったという気持ちになる契機となった大会だったと思います。

(「向日」パートナーの時代へ)

私は、帰国した2007年の頃、韓国は日本離れの道をずっと行くんじゃないかというふうに思っていて、今回、2年2ヶ月ぶりに韓国を訪れたんですけども、実は、私の想像は全く裏切られて、近日本ブームみたいなことになっていました。

月桂冠の韓国法人がやっている「かつら」という日本料理チェーンなどは昼時には長い列ができるなど、非常に人気のあるお店が出てきています。聞いてみますと、韓国では2007年末ぐらいから日本酒ブームがおこっているということでした。日本酒の輸入額の推移をみますと、以前と比べて半分くらいのウォン安になっていて、輸入の値段が高くなっているにもかかわらず、毎年50%以上伸びているということになります。

また、日本式の居酒屋がたくさん出来ましたし、一時、韓国も80年代後半から、漢字をどんどんやめて、ハングルだけにしようという民族

主義的な状況が生まれてきたんですけど、最近
はひらがなや漢字が復権してきています。

韓国ではインスタントラーメンがポピュラー
なラーメンの味で、日本の生ラーメンというの
は、あまり受けませんでした。ラーメン不毛地
帯と呼ばれていたぐらいで、日本のラーメン屋
が進出して、全然人が入らなくて、つぶれる
ところが多かったんですけども、ここ2年ぐら
いで、爆発的に増えたらしいんです。

なぜ、あれほど日本離れが進んでいると思っ
たのに、2年経って状況が変化したのが不思議で、
いろいろと聞いて見たんですけど、ひとつには、
2003年未から、成田ではなく、羽田から金浦空
港に飛行機が飛ぶようになって、ものすごく行
きやすくなった。円安があったので、日本への
旅行がものすごく増えた。韓国と日本の旅行者
の推移をみますと、ずっと日本からの方が多か
ったんですけど、韓国はものすごい勢いで伸ば
してきて、韓国の人口は日本の1/3ぐらいなん
ですけど、同じくらいの状況になっています。

若い人たちがどんどん日本に出るようになっ
て、日本の味とか日本のいろんなものを吸収し
て韓国に帰ってくるということが背景としてあ
った。それまでは日本というのは近くて遠い国
といわれて、近いんだけど多くは行っていなか
った。

若い世代が実際に日本に行って、日本のいろ
んなものを吸収して帰ってくる。そういう中で、
新たな日本ブームが起きていました。

また、韓国というのは、OECD諸国の中
でもそれなりの力をつけている。それで先進国に
なるんだというのが韓国の大目標なんですね。
先進国にもうちょっとでなれるという中で、ど
こを参考にすればいいかというところ近くに日本が
あった。改めて日本の価値に最近関心もちをは
じめているということが背景にあります。

それと、政権交代が韓国でも起きました。2007
年末です。イミョンバク政権ですね。この人は
大阪生まれで現代建設の社長をして、非常に実
利主義、前のノムヒョンさんは学生運動出身で

すから、非常に民族主義で道徳的なんですよ
ね。イミョンバクさんというのは、日本生まれで、
ビジネスライクに何でも付き合おうというこ
とで、今まで、日本が好きということが言いにく
かった社会の空気が政権交代で変わった。日本
が好きだということが政権が変わって抵抗感が
なくなった。そういうのがやはりあったんでは
ないかと思います。

若者たちの中では、日本チックという言葉が
あるんですけど、日本チック、イコール、スタ
イリッシュだとかフレンディだとかと同意語に
なっている。

（「向日」五つのキーワード）

若者たちを中心に、「向日」という動きが最近
強まっていると思います。

その中で五つのキーワードがありまして、①
クリーンである②秩序だっている③親切である
④ソフト⑤かわいい。これが韓国の若者たちが
日本を見習うために言っている五つのキーワ
ードだそうです。

韓国南部の都市、グンサンには日本の植民地
時代に米の積出港がありました。南部は肥沃な
土地で米がたくさん穫れたんですね。日本の会
社がそこから米を積み出して下関の方へ運んで
いった。ある意味で韓国的にいうと、収奪の現
場だったんです。

これは、グンサンにある朝鮮銀行の支店の建
物で今は廃墟になっています。グンサンでは今
こういった建物を修復して、日本を売りにして
観光開発をしようという動きが出てきているん
ですけど、韓国人の中の歴史のわだかまりにつ
いても、かなり変わってきている状況にありま
す。

これは当時の米の売買で富を築いた日本人の
家ですね。これは、韓国で唯一残る日本風のお
寺です。植民地時代にはたくさんありましたが、
なくなってしまってここだけ残っています。こ
こも観光資源にするようです。ちょっと前まで
は考えられませんでした。

これは、グンサンの日本時代から使っていた

税務署ですね。案内の人がいて、話を伺うと、日本が関わっていた歴史というのは、昔だったら敏感な問題だったんですけれども、最近、やはりその歴史も、韓国の歴史の一部には違いないから、それもニュートラルに見ていきたいということをおっしゃっていました。私はそういう姿勢は付き合っていくうえで負担がないなと思いました。

(韓国人との付き合い方)

最後になりましたが、いくつか韓国人と付き合い合うノウハウについてお話ししたいと思います。まずひとつはオープンマインドで接することです。お互い文化が違うので、それぞれ無理な要求もしてくるし、韓国人は心が広い人が好きなんです。だから、こちらが何か許すと、必ず返ってくるがあります。

あとですね。相手をとにかくほめる。韓国人は自尊心が非常に強いんですね。一番やってはいけないことは、公衆の面前でしかる、これは絶対やってはいけません。ビジネスの世界で韓国人の人を使う場合は褒めて育てることが大切です。

それと言葉を覚えるということですね。韓国人の人というのは、評価を受けたいという気持ちがすごく強くて、特に外国から評価を受けるということについての欲求が強い。だから自分たちの言葉を外国の人たちが使うということ自体が非常に喜びなんです。下手でもいいから何かを覚えて話す全然違います。それは是非やっていただきたい。

韓国のハングル文字はとっつきにくいんですけど、やればやるほど簡単ですから。逆に、日本語というのは韓国人にとっても楽なんですけど、やればやるほど難しくなるんですね。ハングル文字というのは発音記号なんです。それを覚えてしまえばいくらでも読めます。

それと目上の人をたてるんですね。韓国では割り勘文化というのは基本的にあまりないところ。必ずボスがお金を払う。むしろ半分出しますよという相手に対して失礼にあたる。

そういう社会ですから、日本人にとってはなかなかやりにくいんですけど、相手の胸に飛び込むとむしろ相手は気持ちよくなって、何でもしてくれるというところがあると思います。

それと韓国人は大きなものが好きです。国立中央博物館というのが私のいる頃にできたんですけど、新聞で世界6大博物館とって、何が6大かという床面積らしいんです。そういう大きなものに価値を見いだすというところがあって、韓国に行くと、みんな大きな車ですよ。小さな車はあまりないです。贈り物でも、日本なら小さくても真心のこもったものを贈るのが喜ばれると思うんですけど、韓国人は中身はどうあれ、大きなものいいんですよ。荷物になるだろうと相手のことを考えるよりも、大きなものにすると、相手も心の大きいプレゼントをもらったなという気持ちになるようです。

それでは時間がきましたので、ここで私の話を終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

【編集後記】 今年(トドシ)は寅年(トラトシ)。色々なことに**トライ**してみようと……。まずはアカデミーのステップアップを図ろうと思っています。2010年もよろしくお願ひします◆今回の寄稿は北大の山崎先生にお願いしました。飲むと地域のことを熱っぽく語る先生は、いつも地方自治の課題を現場重視の目線で研究されています◆また2009年8月と10月に開催したフォーラム「アジアと北海道のつきあい方パート2」の内容を掲載しました。講師の方々からはアジアとのより具体的な交流のヒントになる新鮮なお話を伺うことができました。特に香港貿易発展局のラム総裁がサプライズで登場された時はびっくりしましたが、観光旅行だけではほとんど見えにくい香港の状況を知る貴重な機会となりました。お話をくださった安齋様、ラム総裁、近藤様には誌上を借りて改めて厚く御礼申し上げます。有り難うございました。

(編集責任者：副理事長 角井)